

平成22年6月11日現在

研究種目：基盤研究（C）

研究期間：2007～2009

課題番号：19520134

研究課題名（和文）古風土記の風土論的研究

研究課題名（英文）A study of the climate idea of the Fudoki

研究代表者

飯泉 健司（I i i z u m i K e n j i）

埼玉大学・教育学部・准教授

研究者番号：70277747

研究成果の概要（和文）：古風土記には、記紀万葉集とは異なった記述が多々見られる。それらは、随筆や紀行文等の後世文芸に突如出現するとされてきた要因とも通じる。このように特異かつ、文芸史上重要な古風土記が生成する背景について、風土といった側面から研究した。都では経験し得ない風土が、特異な記述を生み、さらに中央の文芸に影響を与える。その背後には表面上では見えてこない文芸的な連携（駅家・ミヤケ・軍団等を通じた文芸サイクル）があることを想定した。

研究成果の概要（英文）：In Fudoki, different types of descriptions are frequently observed from Kojiki and Nihonshoki and Manyoshu. The descriptions of Fudoki and Kojiki share common characteristics with that of essays and travel writing in later eras (the characteristics emerged all of a sudden in the eras). The present study investigated, with reference to the climate, the background which hatched Fudoki which are regarded as unique and important in the field of literature. The type of climate which the people in the capital did not experience hatched the unique characteristics of the descriptions and also influenced the literature in the capital. It is assumed that behind them existed an invisible literary linkage—the literary cycle by Umayu, Miyake and cops and so forth.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2007年度	1,500,000	450,000	1,950,000
2008年度	900,000	270,000	1,170,000
2009年度	700,000	210,000	910,000
年度			
年度			
総計	3,100,000	930,000	4,030,000

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：文学・日本文学

キーワード：風土・生活・地形・文芸史・文芸

サイクル・地方の視点・相対化

科学研究費補助金研究成果報告書

1. 研究開始当初の背景

(1) 風土記の特異性を考える場合、中央の文芸にはない要因を想定する必要がある。本研究では、地方の風土が大きく影響していると考えた。

(2) 風土を調べるためには、実地調査（民俗行事・地形・生活等の調査）を行う必要があった。

(3) しかし、開発や過疎化によって地形が破壊され、生活が変化して民俗行事も廃絶の危機にあり、調査の緊急性が生じた。

(4) また上記(2)を行うにあたり、研究費が必要となったが、大学予算ではまかなえず、科学研究費を申請した。

2. 研究の目的

(1) 風土という観点から風土記を捉える。

(2) 風土を多角的に捉える。

(3) 風土記を他地方・中央文芸・後世文芸・中国文芸と対比させながら相対的に捉える。

3. 研究の方法

(1) 事前の資料収集

- ① 地図
- ② 地方図書
- ③ 関係論文

(2) 実地調査

- ① 地形観察
- ② 民俗行事調査
- ③ 聞き取り調査
- ④ 地元研究者との情報交換

(3) 地元での資料収集

- ① 図書館調査
- ② 博物館調査
- ③ 行政資料調査
- ④ 地元研究誌調査

(4) 資料の分析

- ① 収集資料の信憑性の検討
- ② 聞き取り内容と文献との突き合わせ
- ③ 地形・風土の地図上での確認・検討

(5) 他地域との比較

- ① 周辺地域との比較検討
- ② 類似地形との比較検討
- ③ 類似習俗との比較検討

(6) 他作品との比較検討

- ① 他風土記との比較
- ② 古事記・日本書紀との比較
- ③ 万葉集との比較
- ④ 他、木簡等資料との比較

(7) 後世文芸作品との比較検討

- ① 物語との比較
- ② 和歌との比較
- ③ 紀行文・随筆との比較
- ④ 中近世作品との比較

(8) 中国文芸との比較検討

- ① 古代中国歴史書との比較
- ② 古代中国詩文との比較

(9) 総括

時間的・空間的な比較を通じた相対化

4. 研究成果

(1) 風土記を生成させる風土性が理解できた。

- ① 播磨国の開拓地性（古代から続く開墾に伴う競争心と文化の向上）
- ② 出雲国における国家宗教の影響（出雲大社を中心とした国家神話の浸透と統制）
- ③ 常陸国の情報伝達ルート（鹿島と国府を中心としたヤマトタケル伝承の流布）
- ④ 豊前国の文化交流性（瀬戸内の言語・文化との共通性及び大陸文化との交流地点）
- ⑤ 肥前の独自文化（筑後平野を中心とした独自の文化形成と、外国との交流）

(2) 記紀万葉との相違点が理解できた。

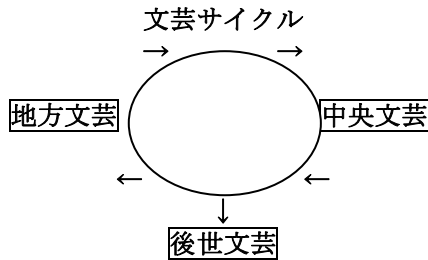
- ① 中央官僚の旅人的な視点（派遣された国司が初めて見る光景への驚きが、「在」等の表現方法に表れている。）
- ② 国家に介入されない「我」の自覚（地理的に都と離れて、自治的な雰囲気と接触することによって、国家に制約されない見方を獲得することが、評価・推測記述となって表れている。）
- ③ 宗教者の原体験等の古層文化（崇りにより河川が氾濫し、水域が平野一面に広がったときにおける、鎮め祀るシャーマンと荒れる神とが交信した形跡を「神在型」等にかがうことができる。）
- ④ 軍団・駅家等、地方の文化拠点（中央と独自に直接交流し、地方文芸の発信地としての軍団・駅家・ミヤケの重要性）
- ⑤ 中央との情報交換ルート（国司・駅使・駅子・僧侶等が、公務と離れて地域住民と交流する文芸サロンが存在した）

(3) 後世・中国文芸との関係性

- ① 紀行文との表現の類似（旅人が、大きな景を見て、次第に小さな景へと焦点化し、興味をもった時点で、土地人の語りが始まる、という記述は紀行文と通じる表現である。）
- ② 随筆における評価・推測記述との類似（古代の語りは、登場人物に同化するという方法を用いたが、対象物から一步離れた客観的な視点を風土記の筆録者は持っている。これは随筆作者の視点のあり方と同じであった。）
- ③ 漢文脈とは異なる和文脈の成立（漢文では「主語＋在」「有＋主語」の語順が守られるが、風土記には「在＋主語」「主語＋有」の例が多々見られる。これは語順を重視した和文化の先蹤と言える。）

(4) 上記、(1)～(3)を踏まえて、特定の風土から生成した表現が、中央との情報ルートによって中央に運ばれて、後

世文芸を生成する契機となり、さらに中央で加工された表現が再び地方にもたらされて新表現が生成する、というように循環する文芸サイクルが想定できた。



5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計6件)

- (1) 飯泉健司「つくられた地形—破壊が生む聖地」『古代文学』(古代文学会), 査読有,49号,88-94頁,2010年.
- (2) 飯泉健司「怒る神とトポス—播磨国風土記・十四丘神話」『古代文学』(古代文学会), 査読有,48号,72-77頁,2009年.
- (3) 飯泉健司「伊奈利社起源伝承の意義と背景」『朱』(伏見稻荷大社), 査読無,52号,13-20頁,2009年.
- (4) 飯泉健司「風土記が書くこと、書かないこと」『古代学研究所紀要 風土記の現在』(明治大学), 査読無, 特集号, 75-94頁,2009年.
- (5) 飯泉健司「肥沃な土地の荒田伝承—豊後国風土記・餅の的一—」『かざろひ』(ひむかし会), 査読有, 創刊号, 66-80頁,2008年.
- (6) 飯泉健司「天に通う人々—播磨国風土記・八十橋条の生成—」『説話・伝承学』(説話・伝承学会大会), 査読有, 第16号,74-88頁,2008年
- (7) 薄井俊二「『日本国見在書目録』所収の地理書について(その2)」『風土記研究』(風土記研究会), 査読有,32号,64-83頁,2008年.
- (8) 薄井俊二「『日本国見在書目録』所収の地理書について(その1)」『風土記研究』(風土記研究会), 査読有,31号,36-63頁,2007年.

[学会発表] (計7件)

- (1) 飯泉健司「三山の力」美夫君志会例会, 2010年2月14日, 中京大学.

- (2) 飯泉健司「つくられた地形—破壊が生む聖地」古代文学会例会(夏期セミナーシンポジウム), 2009年8月19日, 箱根・「千條」.
 - (3) 飯泉健司「駅家の文学・ミヤケの文学」上代文学会例会, 2008年12月13日, 青山学院大学.
 - (4) 飯泉健司「豊後国風土記の地名構造—遡及的歴史観」風土記研究会研究発表会, 2008年9月6日, 別府大学.
 - (5) 飯泉健司「神話を生み出すトポス—風土記から記紀へ」古代文学会例会(夏期セミナーシンポジウム)2008年8月20日, 箱根・「千條」.
 - (6) 飯泉健司「祭りの構造と継承」埼玉大学国語教育学会大会, 2007年12月8日, 埼玉大学.
 - (7) 飯泉健司「天に通う人々—播磨国風土記・八十橋条の生成—」説話・伝承学会大会, 2007年4月14日, 立命館大学.
- [図書] (計5件)
- (1) 飯泉健司, 他, 清文堂, 『説話論集18集』, 「駅家の文学・ミヤケの文学—風土記説話の生成過程」247-275頁, 2010年.
 - (2) 飯泉健司, 笠間書院, 『生の万葉集』(高岡市万葉歴史館, 「怒り恨みと」, 169-199頁, 2010年.
 - (3) 飯泉健司, 他, おうふう『古代文芸論叢』, 「記・風土記のタケルと軍団—八世紀の文芸サークル試論」51頁-63頁, 2009年.
 - (4) 飯泉健司, 他, 笠間書院『上代文学会第二期研究叢書風土記の表現』, 「靈劍の主張—播磨国風土記讃容郡仲川里条の表現性」232-247頁, 2009年.
 - (5) 飯泉健司, 他, おうふう, 『記紀・風土記論究』, 「豊後国風土記の地名構造—遡及志向の歴史観」, 493-507頁, 2009年.
 - (6) 飯泉健司, 他, 笠間書院『日本書紀【歌】全注釈』「勾大兄皇子と春日皇女の唱

和」(350-359頁),「継体紀の歌」(365頁),「蘇我蝦夷の八協舞の歌」(388-390頁),「山背大兄の滅亡」(390-394頁)「猿の歌」(395-398頁),蘇我氏の滅亡」(398-406頁),「皇極紀の歌」(416-417頁),2008年.

○出願状況(計0件)

名称:
発明者:
権利者:
種類:
番号:
出願年月日:
国内外の別:

○取得状況(計0件)

名称:
発明者:
権利者:
種類:
番号:
取得年月日:
国内外の別:

[その他]

- (1) 飯泉健司「国譲り神話」『歴史読本』55巻4号,140-145頁,2010年4月
- (2) 飯泉健司「播磨国風土記一文芸的な面白さ」『国文学』21年5月号,26-33頁,2009年5月.
- (3) 飯泉健司「をち・をつ」『修辞論』(近藤信義編,おうふう),421-427頁,2008年12月.
- (4) 飯泉健司「宇摩志麻治命—物部氏の知恵」『歴史読本』第53巻11号,94-99頁,2008年11月.
- (5) 飯泉健司「歌の力(その三)—情念の基底にある快楽的本能—」『相聞』(相聞の会)35号,20-25頁.2008年4月
- (6) 飯泉健司「天智天皇」『歴史読本』第52巻14号,188-193頁,2007年12月.

(7) 飯泉健司「斉明天皇」『歴史読本』第52巻14号,182-187頁,2007年12月.

(8) 飯泉健司「歌の力(その二)—語感・音感」『相聞』(相聞の会)34号,18-23頁,2007年12月.

(9) 飯泉健司「歌の力—恋愛歌謡の力」『相聞』(相聞の会)33号,18-23頁,2007年8月.

6. 研究組織

(1) 研究代表者

飯泉 健司 (Iizumi Kenji)
埼玉大学・教育学部・准教授
研究者番号:70277747

(2) 研究分担者

薄井 俊二 (Usui Shunji)
埼玉大学・教育学部・教授
研究者番号:90185009
(H20→21:連携研究者)

(3) 連携研究者

薄井 俊二 (Usui Shunji)
埼玉大学・教育学部・教授
研究者番号:90185009
(H20→21:連携研究者)